

# 新歓祭行事

## ようこそ東薬へ

新入生歓迎行事の一環として、新歓祭実行委員会をはじめとした各団体の主催で今年も数多くのイベントが行われた。

今回は以下に挙げた新歓行事を特集した。マラソン大会については次号に掲載予定である。

### 新歓キャンプ

新歓行事のトップを飾る新歓キャンプが四月一日から三日まで開催された。キャンプは四三二講義室での開会式・班劇及び班員の発表から始まり、それから場所をセミナーハウスに移しての班単位でのレクリエーションや先生とのパネルディスカッション、幾つかの班での合同レクリエーションなど盛りだくさんの内容であった。新入生もすぐに馴染み、自分の班のみではなく他の班にも遊びに行ったりと、新入生の期待をふくらますよい機会となったようだ。

### 柚木オリ

四月二十二日、晴天の下で柚木オリエンテーリングが開催された。柚木オリとは、学校内外の各ポイントを通りながらゲームを行い、その合計点数を競い、また、各ポイントの張り紙を探し、その紙に書かれている問題を解きながら、上級生と下級生の親睦を深めるものである。

### 春展

去る四月十九日(水)から二十一日(水)まで、P1Tにて春展が開催された。これは新歓祭の一環として文化部門の主催により、華道部・写真部・美術部及びびやきものクラブが合同で行う展示会で、音楽祭と双壁を成すイベントである。

普段、自習や団らんに使われているP1Tで行われたので、新入生のみではなく上級生にも目新しく映ったのではないだろうか。各部とも素晴らしい作品を展示していたので校内展にも期待したい。

### 音楽祭

四月十九日(水)と二十一日(水)の両日、恒例となっている音楽祭が「P1T」にて行われた。

参加した団体は合唱団、ギター・アンサンブル部、モダンジャズ研究部、軽音楽部、ハルモニオ管弦楽団(十九日のみ参加)であった。

どの団体の演奏も練習の成果を十分に発揮したようで、非常に聴き応えのあるものであった。また当日は、シュー

### スポーツ大会

去る四月二十三日、同好会主催のスポーツ大会が行われた。当日は本学大講堂第一体育館においてバスケットボールが、京王研修センター内の体育館でバレーボールが行われ、新入生、上級生共に大いに盛り上がった。

入学してから緊張の連続であった一年生にとっては良い気分転換になったようだ。参加者の中には久しぶりに体を動かし、翌日に痛みを残した人も少なくないようだったが、楽しい思い出となったのではないだろうか。

### 学術発表会

四月二十二日、二二講義室にて第十六回学術発表会が開催された。これは学術部門に所属している八団体の新歓行事の意味も込めて、日頃の研究の結果を発表するものである。

優勝は昨年引き続き生物学研究部であったが、どの部門も限られた時間と費用を駆使しており、高度な研究内容は甲乙付けがたいものばかりであった。

広い会場は上級生・新入生で埋められ、新歓行事としても大成功であった。

募集人員	受験者数	合格者数	入学者数
<b>薬学部 (男子部)</b>			
推薦	60	156	59
一般A方式	20	1,090	136
一般B方式	160	1,618	318
合計	240	2,864	513
<b>薬学部 (女子部)</b>			
推薦	60	350	63
一般A方式	20	1,189	137
一般B方式	100	1,224	217
合計	180	2,763	417
合計	420	5,627	930
<b>生命科学部 (分子)</b>			
推薦	30	74	31
一般I 前期	55	1,008	150
一般I 後期	15	108	17
一般II 前期	100	1,190	198
合計	190	2,380	396
<b>生命科学部 (環境)</b>			
推薦	20	59	21
一般I 前期	30	529	88
一般I 後期	10	64	16
一般II 前期	60	652	125
合計	120	1,245	230
合計	160	1,842	323

平成7年度入試結果

## 平成7年度入試結果

本年度の入試結果が発表された。正確な受験者数、合格者数及び入学者数は左の表を参照されたい。

昨年設立された生命科学部の一般入試には、今年からセンター試験が導入されたが、薬学部とは異なり二次試験として面接が課された。それがおそらく受験者数に影響したのであろう。昨年の一般

## レオン

### —凶暴な純愛—

「ブラン・ブルー」「ニキータ」などで映画フリーク達に熱狂的な支持を受けているリュック・ベッソン監督。一方、前述の二作で独特のかわこさを出している実力派の俳優ジャン・レノ。二人が再びコンビを組み、初めてアメリカ映画に挑んだ話題作「レオン」を見た。

この映画の脚本は「ニキータ」で掃除人を演じたジャン・レノに惚れ込んだベッソン監督が彼のために書き下ろしたものである。相手役の十二才の少女ナタリー・ポトマンは、二十人以上にもぼる候補者の中から監督自らの手で選ばれた。

トから出ていくとく普通の子の十二才の少女らしく遊ぶのです。驚きでしたよ」という監督の言葉からも彼女の素晴らしい演技が分かるいただけるだろう。

戦うことしか知らず一匹狼の殺し屋レオンと、家族を失い、たった一人取り残された少女マチルダが、ニューヨークを舞台に繰り広げるドラマ。初めは打ち解けることのできなかった二人が、次第に互いのことを大切に思い必要としていく。親子ほど歳の離れた二人の不器用で純粋な愛が、迫力のあるアクションを織り込みながら描かれており「凶暴な純愛」と言うサブタイトルにふさわしい作品となっている。

なかなか見応えのある映画なので興味のある方は映画館へ足を運ばれてみてはいかがだろうか。

薬学部のセンター入試を利用したA方式も、当初は珍しがられたが、今では私立入試の常識となった。昨年と比べるとやや減少したものの男女とも今年も千人を超える受験者を獲得している。

今回が二回目である生命科学部はともかく、薬学部の入試結果は大きな増減もなく例年並みといえそうだ。

### 新聞会執行交代

去る四月一日をもちまして当新聞会では次のように執行交代を行いました。すでに公示等にて存知かと思われませんが、この場でも一度お知らせ致します。

会長 二一F 土本 順子  
副会長 二一B 品田 光行  
会計 二一F 永沢 明子  
編集長 二一分 阿部由紀枝

今後とも皆様によりよい新聞を提供するよう努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

最近風邪が流行っている。いつものことだが、どんなにかからないように努力をしても結局は感染してしまう。どうしてだろう。はやく元気な本に戻りたいものだ。

と思ったら、部室棟自動販売機の冷たい飲料が水切れのために全て売り切れとなってしまっていた。ただでさえ破れているというのに。なんで皆で私をいじめるんだろ。

編集後記  
女主人様とお呼びっっっっっかわいがってあげてよ♡オーホホホホホー(ちゃてい)  
◎盛況の居寝ちゃん欲しいよう。友邦きょう茶一野ふえ  
きーんあべっ♡きやべっ♡何の故きやべっ♡それは思いついたから。(XAZSA)  
▼アチョウトリヤアーホーはいはいはいはいはいはいはい。新聞作るのが結構疲れるな。(タツ彦)  
。取材と締切と実習テストがありました。でも、鬼のような編集長が二日で書けと言いました。なんて不幸なんだろ。

私(安本)  
私は風邪で苦しい。不幸なのは君だけじゃない。(甲)  
おこれで最後となりました。今まで一発で「青龍目」と出たことはなかったのに今日は出ましたね。(青龍目)  
♡ウフフフ、かわいいボウヤ、可愛がってあげよう♡  
♡コラ、そこの男っ！仕事の手を休めるんじゃないよ！  
♡ピシッピシッ！→ムチの音  
◎私の魅力にかなうものなどいなくてよ！オーホホホホホホホホホ(ハニ二目見)



五月  
十三日(土) マラソン大会

# 東京薬科大学新聞

発行所 東京薬科大学新聞会  
責任者 土本順子

五月号

## 国試またも八割台

### 低迷を続ける合格率

去る四月二日、三日に実施された第八十回薬剤師国家試験の結果が発表された。まず結果は次の通りであった。

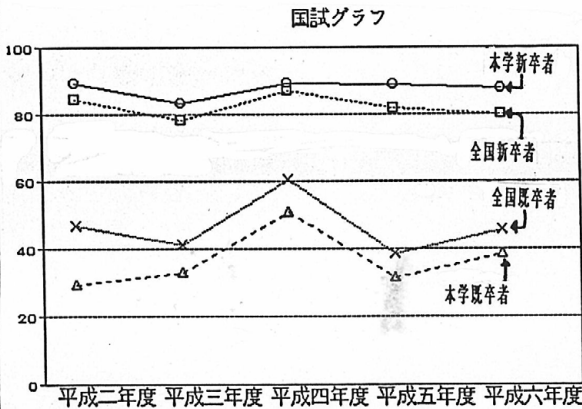
本学合格率  
新卒者 八八・〇六％  
既卒者 三八・八四％  
全国合格率  
新卒者 八〇・二六％  
既卒者 四五・七二％

今年度は去年と比べて、既卒者の合格者が本学、全国共に伸びているが、新卒者の合格率は下がっている。ちなみに今年度のボーダーラインは、

大体六割一分位であるとの見方がなされている。また、来年から大幅に傾向が変わってしまう国家試験のことについて山田泰司教授に伺った。

来年からは従来のように科目別には出題されないため、昨年度までの過去問題は参考になりません。また、暗記問題ばかりでなく考えて答える問題が多くなるそうです。このように激変する国家試験を受けることとなる学生に次のようなアドバイスを頂いた。

## 薬剤師国家試験合格率推移



まず、考えて答える問題が多いため、一年次に勉強する基礎的な内容をしっかりと復習しておく必要がある。また、前期・後期の定期試験は絶対的に一度で通すように心がけるのが大切である。国家試験には再試験はないから、日頃から「再試験で通らなければならない」と考えていてはいけない。それから、前期警告を受けるなどというのは基礎的な知識の比率が増す。つまり一年次に警告を受けるということは国家試験が危ないということを示唆しているのである。警告を受けた学生はそういって警告の切実さをしっかりと考えて欲しい。

### 選管決定

先日行われた自治委員会において平成七年度執行委員会役員選挙の選挙管理委員会が決定した。

委員長 武田 学

### 選挙決定

今年度の選挙管理委員会には目新しい企画があるわけではありませんが、学生の選挙に対する意識の低下をくい止めたいという思いから、委員一同頑張りたいと思いますので、協力をお願い致します。

### 自治議長交代

既に公示があったように、四月十九日の定例自治委員会にて平成七年度学生自治会自治委員会常任議長団が以下のよう

議長	二一環 齊藤香代子
副議長	二一A 赤羽 規頼
書記	二一分 林沢 美紀
会計	一D 榎本 純
	三B 佐野雅太郎

(敬称略)

「幸せは歩いてこない、だから歩いてゆくんだね」春になった。新たな環境の中で、新たな目標を持った、新たな一歩を踏み出す季節である。そしてこの時期に思い出すのは冒頭の歌詞である。皆さんご存知であろう、水前寺清子さんの歌った「三百六十五歩のマーチ」である。春というのは不思議な季節である。木々が緑を濃くしていき、花が競い合うように咲き誇っている。そして、それとは正反対にほんのわずかな過去を思い出し、そこから抜け出せなくなってしまう人が出てくるのである。しかし、これは別に「春」が原因なのではない。「節目」の季節がたまたま春にあるからで、仮に日本が欧米の多くの国を見習って秋に「節目」を持ってくれば「五月病」ならぬ「十月病」が発生するだけのことだろう。いま我々々々々という節目を迎え、新たな環境に直面している。この新たな環境の中で、自分なりの新たな目標を立て、それに向かって一歩を踏み出すべきではないだろうか。思い出し捕らわれるのではなく、思い出さず持つことができた環境に感謝し、新たな一歩を踏み出す時が来たのである。我々はそれぞれが最終的な目標を持ち、その山を登っていく途中にある。まだまだ先は長く、頂上まで遠くかすんで見える。頂上は今までで登ってきた道を振り返り、自分を励ますことも必要だろうが、その次の瞬間に再び歩き出す。そこそ大切なのである。幸せは歩いてこない、だから歩いてゆくんだね。自分から登っていかないと、頂上は下りてこない。千里の道も一歩から始まる。これを信じよう。(小がくせい)

皆さんはパソコンを生活にどの程度利用しているだろうか？最近ではコンピュータが手に入り易くなり、マルチメディアブームも起こっている。コンピュータが社会に浸透することは大変良い事である。しかし、こうした時代の流れの中でそれを批判する人もかなりいる。昔からコンピュータを使っていて、一種の職人気質になっていく中の人達である。彼等の中には本気で「コンピュータは専門的に勉強した人達にのみ使う資格がある」と思っている人が多し。五年位前のコンピュータの説明書を読むにききなりの難しい横文字が出て来る。その意味を説明書の索引で調べても、いかに難解かを知らされるだけである。こうした不親切に参加して欲しい。それから、勉強に関して国家試験対策の勉強ばかりではなく、自分の好きな科目をさらに深く勉強したり、語学や一般教養を身に付けたりもして欲しい。机上の知識ばかり身につけても、実際に現場に出た時に通用しなければ意味がないのである。

### 正しいパソコンライフのススメ

ザーから嫌われはしなかったが、ウィンドウズの登場により様々なパソコンが使用可能になりその地位が脅かされる。ようやく使いやすいういパソコンを作ろうという傾向が見えてくるようになってきた。コンピュータを以前から使っていた人達にとってはこうした状況も面白くないものでない。

ある。なにしろ彼等は「自分たちはコンピュータを使える人間なんだ」と一種の優越感をもっているのだ。素人が出来合いのソフトウェアを使って満足している姿を見て、軽蔑心さえ抱いているだろう。しかし、そのような排他的な思想の持ち主には一言「オタッキー」とのしるべきである。クローズド・パスルでも競馬でも世の中に浸透して一般化すればひとつの文化となる。コンピュータも同じである。これから生活にどんどんコンピュータが進出してくると、その中でコンピュータを自分のライフスタイルに取り入れ、かつ「おたく」とならず自然に振る舞えるかどうかは貴方の心がけ次第である。(中島龍一)

### 薬味

「幸せは歩いてこない、だから歩いてゆくんだね」春になった。新たな環境の中で、新たな目標を持った、新たな一歩を踏み出す季節である。そしてこの時期に思い出すのは冒頭の歌詞である。皆さんご存知であろう、水前寺清子さんの歌った「三百六十五歩のマーチ」である。春というのは不思議な季節である。木々が緑を濃くしていき、花が競い合うように咲き誇っている。そして、それとは正反対にほんのわずかな過去を思い出し、そこから抜け出せなくなってしまう人が出てくるのである。しかし、これは別に「春」が原因なのではない。「節目」の季節がたまたま春にあるからで、仮に日本が欧米の多くの国を見習って秋に「節目」を持ってくれば「五月病」ならぬ「十月病」が発生するだけのことだろう。いま我々々々々という節目を迎え、新たな環境に直面している。この新たな環境の中で、自分なりの新たな目標を立て、それに向かって一歩を踏み出すべきではないだろうか。思い出し捕らわれるのではなく、思い出さず持つことができた環境に感謝し、新たな一歩を踏み出す時が来たのである。我々はそれぞれが最終的な目標を持ち、その山を登っていく途中にある。まだまだ先は長く、頂上まで遠くかすんで見える。頂上は今までで登ってきた道を振り返り、自分を励ますことも必要だろうが、その次の瞬間に再び歩き出す。そこそ大切なのである。幸せは歩いてこない、だから歩いてゆくんだね。自分から登っていかないと、頂上は下りてこない。千里の道も一歩から始まる。これを信じよう。(小がくせい)